

8 / 1 (土)から胃がん検診が変わります

市の胃がん検診で胃カメラが選べます！

自分に合った検査を

新たに胃内視鏡検査が導入されます！

厚生労働省の指針により、市町村が行う胃がん検診として、従来のバリウム検査だけでなく、胃カメラ検査（胃内視鏡検査）についても推奨されており、検査実施の準備が整ったため国の指針に合わせて胃内視鏡検査を導入することにしました。これにより、市民の皆さんがどちらかの検査を選んで受けることができるようになります。



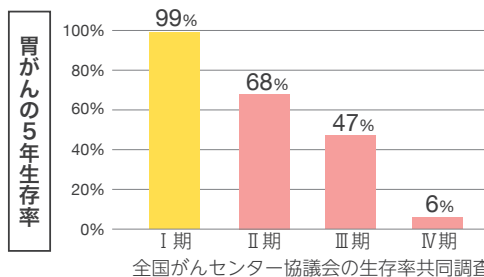
【詳細】健康推進課 25・6315

／知っていますか？／

胃がんは早期発見・治療で99%が治ります

胃がんは、日本人に多くみられるがんの1つです。特に50歳を境に罹患が増える傾向があり、年齢とともにリスクが高まることが知られています。そのため、定期的な健康診断や胃がん検診を受けることが非常に重要です。

胃がんは早期の段階で発見されれば、治療後の経過が非常に良好ながんです。実際にⅠ期（早期）の胃がんの場合、治療を受けた方の5年生存率は98.7%という高い数字が報告されています。



旭川医科大学内科学講座消化器内科学分野教授 藤谷さんに聞きました

●胃内視鏡検査のメリット、デメリットはなんですか？

メリットは、気になるものが見つければそのまま細胞を採取し、病理学的な検査（生検）ができる点です。バリウム検査で異常が見つかった時も改めて内視鏡検査が必要ですから、手間や負担を減らせる場合があります。デメリットは、確率はすごく低いです。臓器を傷つけて合併症を起こす可能性がある、費用がやや高い、などがあります。

●がん検診の定期受診は必要ですか？

がん検診の目的は、単にがんを見つけることではなく早期発見、早期治療につなげることでがんで亡くなる人を減らすことです。定期的な受診することで、がんを早期に発見できる可能性が高くなります。がん検診の種類によって推奨される受診期間は異なりますが、1年または2年に1度の受診が望ましいです。

●胃内にピロリ菌がない人も検診を受けた方がいいですか？

ピロリ菌がもともといない人は胃がんになりにくいといわれています。また、ピロリ菌を除菌した人は現在胃の中に菌はいませんが、胃がんはがん化するのに10年以上かかる場合もあります。どちらの方も、自己判断せず定期受診を行うことが大切です。



旭川医科大学内科学講座消化器内科学分野教授 藤谷幹浩さん

胃がん検診の内容

適用日	7/31金まで	8/1(土)から
対象年齢	40歳以上 ※令和8年4/1現在	50歳以上 偶数年齢の旭川市民 ※令和8年4/1現在
受診頻度	1年に1回	2年に1回
検査内容	胃部エックス線検査（バリウム検査）	①胃部エックス線検査（バリウム検査） ②胃カメラ検査（胃内視鏡検査）
自己負担額	500円	①500円 ②3,200円

次の方は無料でがん検診を受けることができます。

- ①受診日に旭川市の国民健康保険被保険者の方
- ②受診日に70歳以上の方
- ③受診日に65歳～69歳の後期高齢者医療保険加入者
- ④生活保護世帯の方
- ⑤中国残留邦人の支援給付を受給されている方
- ⑥世帯全員の当該年度の市民税非課税の方
※⑥の方は事前に健康推進課（7の9 総合庁舎4階）または各支所の窓口で「自己負担額免除券」の交付が必要です。



／ほかにもあります！／

旭川市のがん検診

肺がん検診 乳がん検診 ピロリ菌検査
大腸がん検診 子宮がん検診

市が検診費用を助成しており、安価で受けることができます！



がん検診



実施医療機関

